

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4773800034		
法人名	社会福祉法人 久仙会		
事業所名	まがい友遊苑		
所在地	沖縄県島尻郡久米島町真我里366		
自己評価作成日	令和7年2月7日	評価結果市町村受理日	令和7年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4773800034-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和7年 2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご家族への電話や文書連絡により、入居者の皆様の現状をお伝えし、ご理解いただいています。面会や外出の機会が増えるよう援助し、入居者やご家族の皆様の意向を把握するように努めています。 ・季節や時期のイベントに合わせた手工芸等に取り組み、事業所内の雰囲気を作りました。 ・電話やリモートでの面会の機会が持てるよう、機器等を整備し、ご希望者にはリモート面会にも対応しています。 ・季節に合わせて、入居者の方と花壇等に花を植え替え、入居者の皆様が鑑賞できるようにしています。 ・食事は、時期に合わせて、地場産の野菜やお魚が食べられるように仕入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念については、職員が全員参加の月例職員会議の場や年間の研修計画に基づいた「職員勉強会」の場で確認している。また、利用者の家族あてに毎月発行している広報誌にも理念を掲載して運営に反映している。事業所は利用者に対して年1回「満足度アンケート」を実施し、食事の希望や介護支援サービスについて意見を求め、事業所のサービス向上の参考にしてている。家族へは毎月広報誌を送付して利用者の生活ぶりをお知らせし、コミュニケーションを図っている。 食事は、3食職員の手作りで、地元で採れた食材を多く使い、利用者の好みに合わせた献立を調理し、提供している。事業所では、様々な食材の値上げ対策としてスーパーでの購入以外に配達可能な地元の青果店を利用して食材費を据え置きできるよう工夫している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念を作り、入居者、ご家族、訪問者、職員が見やすいように玄関に掲示しています。また、パンフレットや毎月発行している広報紙にも記載し、月1回の職員会議においても再度、職員と管理者で再確認し共有しています。	事業所は職員が全員参加の月例職員会議の場や年間の研修計画に基づき「職員勉強会」の場で理念について確認しているほか、利用者の家族あてに毎月発行している広報誌にも理念を掲載して運営に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	真我里地区会へ会費を負担し、事業所として加入しています。毎月地区の区長が訪問し、宛の情報を伝えたり、地区の情報を交流しています。地区会への加入により、町の広報誌の配布もあり、入居者の皆様の町や地区社会への参加ができています。	事業所は地元の地区会に参加し、地元のイベント情報などを参考に交流に努めていて、コロナ禍前に参加していた「まがいエイサー大会」への復帰を検討しているほか「久米島マラソン」の応援など地区行事を通じて地域との関係づくりに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、町社会福祉協議会、公立久米島病院、地域交流の場で認知症の方々への支援や情報発信、ご家族からの相談等にも対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、事業の報告を行っています。事業報告や意見、町内の情報交換を行い、サービス向上に活かしています。	運営推進会議は2か月に1回開催され、行政、地区会長、家族、外部から運営推進委員が参加して実施されている。開催当日3日前には会議に必要な資料を委員に配布しスムーズな運営に取り組んでいる。	会議の前に資料を配布するなど、運営推進会議のスムーズな開催に取り組んでいるが、参加委員からの意見や要望が議事録に取り上げられていない。参加者の意見は次の会議に繋がる大事なポイントであることから、積極的に意見を求めることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連絡を行い、電話対応、サービスの空き状況の報告、災害時等の状況報告の連絡をしています。	行政との関係は、運営推進会議を通じて運営に関する情報や指示を受けて事業所の運営に反映している。特に災害対策について行政とは津波を想定したシュミレーション訓練を行うなど具体的な連携に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為については、職員へ通知し理解を深めています。身体拘束廃止委員会のメンバーとして、運営推進委員を委員とし、定期的に状況を報告し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束適正化について指針、マニュアルの整備がされているが、身体拘束適正化委員会は虐待防止委員会や感染防止対策委員会と同時に開催されており、議事録も混在して記録されている。また身体拘束適正化委員会の委員は指針に記された委員ではなく、運営推進委員会議の委員が併任している。	身体拘束適正化委員会や虐待防止委員会、感染防止対策委員会はそれぞれ目的が違うため、委員会の運営や議事録は個別に運営管理されるように改善してもらいたい。また、委員の構成は指針に記された委員で運営してもらいたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する勉強会を行い、事例を含めて職員の意識向上を図りました。運営推進会議においても、高齢者虐待防止法について施設での取り組みや内容について理解していたき、報告しています。	虐待防止委員会の指針、マニュアルが整備されているが、虐待防止委員会は身体拘束適正化委員会や感染防止対策委員会と同時開催されており、議事録も混在して記録されている。月例職員会議で虐待防止に関する研修会を実施し職員のスキルアップを図っている。	身体拘束適正化委員会同様に虐待防止委員会についても運営や議事録は個別に運営管理されるべきであるため改善してもらいたい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を行っている社会福祉協議会との関わりの中で、定期的に職員へも通知し理解を深める機会をもっています。必要な支援や、対応可能な支援についても定期的に確認しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定13条 入退居にあたっての留意事項に基づき、利用者及びご家族に対し、説明、同意、交付して、契約・解約を行っています。内容等の変更があった場合も同じように取り組んでいます。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱とアンケート用紙をおき、ご家族や訪問者がご意見を出しやすいようにしています。入居者の皆様からは、年1回、日々のケアやご意向調査を行い、業務に活かしています。	事業所は利用者に対して年1回「満足度アンケート」を実施し、食事の希望や介護支援サービスについて意見を求め、事業所のサービス向上の参考にしている。家族へは毎月広報誌を送付して利用者の生活ぶりをお知らせし、コミュニケーションを図っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の代表者会議において、事業所の報告や意見交換を行い、職員へ通知しています。職員会議においても職員から広く意見や要望等を聞き、業務や勤務に活かしています。	職員への人事考課は1回／年理事長が行い、その結果を管理者にフィードバックして職員のスキルアップに努めている。管理者は日頃から職員に気軽に声掛けを行い要望や意見が出る雰囲気づくりを心掛けている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給と年2回の賞与、介護職員処遇改善加算を取得し職員へ支給しています。資格取得助成制度を整備し、職員が資格を取得しやすい環境を整備し、資格に応じた手当を支給しています。勤務については職員からの希望日に合わせて勤務を作成しています。	管理者は勤務ローテーションに配慮しながら勤務表を作成し、働きやすい環境整備に取り組み、健康診断は年1回(夜勤者は2回)実施し健康管理に努めている。介護資格取得について助成制度が整備され、職員のスキルアップを図る取り組みが行われている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、施設内研修を研修計画に基づき行い、社外研修への参加機会の場を設けています。これらにより、職員のスキルアップに取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社や町、公立病院の勉強会や研修に参加することで、交流や情報交換を行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集を行い、ニーズの把握に努め、プランにも反映させてケアを行っています。定期的な外出の機会を作り、ご家族からの支援をお願いすることもあります。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	月1回の広報誌の発行、送付することで、施設や入居者の状況を把握していただいています。何かあった場合には、適宜ご連絡し、ご家族からのご要望には極力対応できるように努めています。(外出、散髪、病院受診など)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者及びご家族にとって必要な、介護用品の紹介、訪問診療や訪問看護、居宅療養管理指導など、助言や相談に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場として役割をもっていただくこともあります。ご希望に応じてレクに取り組んでいただいています。食事の際は、職員も一緒に頂き、会話をしながら家庭的な雰囲気を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは、毎月広報誌を送付し、面会の際などに入居者の状況報告を行っています。必要時などには、電話やウェブ電話を行っています。入居者のご希望に合わせて、ご家族へもご協力いただいています。(外出や外泊など)		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの方については、人や場所を把握し、面会や交流が可能となるよう支援しています。(電話や面会、入居者の訪問など)	利用者の馴染みの人の継続については、入居前の暮らしぶりの聞き取りや家族からの情報をもとに、行きたい場所や思い出深い場所を把握し利用者の要望を引き出ししながら、外出訪問や馴染みの人への連絡も行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性や要望をを把握し、その人らしく過ごせるよう席の配置や、入居者同士がコミュニケーションが取りやすいように、取り組んでいます。(席の配置など)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、事業所として相談や支援を行う予定です。また、入居者が退所した後も、同意に基づき必要な限り、ご家族や他事業所へ情報提供を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、入居者の要望の把握に努めています。年1回の入居者の意向調査を行い、入居者の意向の把握に努めました。	事業所は利用者が入居前の生活が継続できる環境づくりを心がけ、職員会議や申し送りミーティングで情報を共有し運営に努めている。事業所は利用者に対して年1回「満足度アンケート」を実施し、食事の好みや生活環境について把握のうえサービス向上に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人お一人のこれまでの生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境を把握し、サービス利用、経過観察に努めています。農業をされていた入居者のために、空き地の一部を畑にし、一緒に農作物の栽培や施設の食材として、入居者と収穫しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にモニタリング、評価を行い、身体能力、ADL、QOLの確認をし、個々の状況に応じた生活が送れるよう支援を行っています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングや、状況に応じ課題とケアの方法等を話し合い、ご本人、家族や関係者で現状に即した介護計画書の作成に努めています。	利用者個々に合った介護計画策定のため、3か月に1回モニタリングを職員会議で行い、管理者やケアマネは職員からの情報を整理し、家族の意向や要望も取り入れたケアプランの策定に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の生活状況、実践、結果、気づき等の記録を行い、職員間で情報共有し、介護計画に取り入れ、支援を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者が、家族と会いたい、連絡取りたい、あるいは出かけたい、買い物やお家を見たい等のニーズがあった場合、柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張理容サービス、地域や町主催の行事への参加、ボランティアによるレク等、地域資源を活用し、入居者の楽しみとなるよう努めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問診療を受け、主治医に現状報告を行い、今後の対応について確認を行っています。ご家族へも情報を共有し、支援しています。	入居の際に事業所としての方針を説明した上で、現在はすべての利用者が月1回、かかりつけ医の訪問診療を受診している。利用者の健康診断も定期的に行われ、居宅療養管理指導のもと薬剤師の訪問もあり、安全で適切な医療の提供を受けられるよう、支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ入居者の状況等の報告を行い、入居者の体調不良時に適切な受診や介護の連携を行っています。入居者がターミナル期の際は、訪問看護と連携し、ケアを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が体調不良となり入退院となった場合、医療機関と連携して入退院の支援に繋がっています。入退院時の送迎支援も行っています。リモート等も活用し、リモート会議を行っています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについて、主治医、訪問看護、家族、施設、職員が連携を行い、事態に対応できるよう勉強会の開催、家族との連携を密におこなっている。	利用者、家族へは入居の際に事業所の重度化や終末期についての方針を説明し、看取り介護に関する説明と同意書を得ている。現在、看護師が常勤しており、オンコール体制も整備され、事業所内で看取りについての勉強会も行われている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時の対応について、日頃より状況に応じた対応ができるよう都度確認したり、応急手当や初期対応、連絡態勢の整備、実践力がつくれるよう、訓練の実施を行っています。	急変事故発生時対応マニュアルが整備され、ヒヤリハット報告書、事故報告書などが記録され、職員への周知もされている。その都度、再発防止についての検討も行われている。急変や事故発生時は、緊急連絡網と連絡先一覧表をもとに速やかに対応できるよう準備し、看護師から応急手当、初期対応について学べる機会を設けている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	年2回の避難訓練の実施及び町の防災訓練への参加、台風等状況によって、法人内他施設との協力体制を整備しています。地域との協力体制も構築していますが、協働訓練は実施できていません。感染予防や蔓延防止のために委員会の開催や指針を整備しています。感染予防に関する研修、訓練等も定期的に行っています。	近隣のホテル等と「災害時における協力協定書」を締結し、地域との協力体制を築いている。11/5久米島町防災訓練へ利用者も含めて14名参加しているが、昼夜を想定した事業所の避難訓練が夜間のみとなっており、備蓄品の管理にも課題が残る。BCPについては、指針、計画書の作成が行われているが、記録が不足している。	昼夜2回の避難訓練の実施が確認できず、備蓄品の管理についても不足しており、飲料水、食料品の3日以上以上の備蓄の整備が望まれる。

自己評価および外部評価結果

自己 部	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的な勉強会の中で職員へ学んでもらい、対応しています。	事業所では、プライバシーの保護や倫理・法令順守について、定期的に勉強会を開き、職員の知識と意識向上に取り組んでいる。肖像権使用同意書(写真使用についてのご案内)が準備され、個人情報の保護方針なども契約時に説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけをし、利用者が選択できるよう対応しています。利用者の要望ををうかがいながら、利用者が声を出しやすい環境づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇活動等は、利用者の希望を伺ってから対応をしています。工夫し利用者の希望に添えるものとなるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや着替えの際は、本人の意向を伺いながら対応しています。季節にあったみだしなみができるよう、ご家族へ協力したいとすることもあります。定期的な出張理容サービスを利用し、整髪も行っています。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の皆様へ食べ物の好き嫌いがないか事前に確認し、料理の本でメニューを決めたりしています。また旬の食材料を心掛け、野菜等の繕いや選別の際は、利用者の方も一緒になって取り掛かります。配下膳やテーブル拭き等も利用者に手伝っていただくこともあります。食前には、口腔体操を行い、職員も一緒に、会話をしながら食事を頂きます。	3食、職員の手作りで、地元で採れた食材を多く使い、利用者の好みに合わせた献立を調理し、提供している。食事作りの時間帯になると食欲をそそる匂いの中で口腔体操が始まり、ほとんどの利用者が完食している。事業所では、様々な食材の値上げ対策としてスーパーでの購入以外に配達可能な地元の青果店を利用して食材費を据え置きできるよう工夫している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量と水分摂取量をチェックし、 体重測定と合わせて、チェックしています。増減 が大きい方については、看護師や主治医に相談 し、補助食品や食事量を調整しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、必要な方には介助を 行っています。お一人お一人の口腔状態と身体 状況等に合わせた介助を行い、口腔内の清潔 保持をしています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活か して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけ た支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間を見計らな いながら、声かけ、トイレ誘導を行い、排泄に向 けた支援を行っています。利用者の状況によっ ては、夜間帯に、転倒防止のためにポータブルト イレを設置します。	日中、夜間も出来るだけトイレでの排泄を支 援し、自立に向けた排泄介助を行っている。夜間 は、転倒や転落防止の為、センサーマットを利用 している方もいるが、排泄チェック表を利用して 声掛けを行い、トイレへ誘導している。トイレは、 3か所とも車いす対応で、立ち上がり用の手すり を設け、排泄失敗時に利用できるシャワーも設 置され、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食 物の工夫や運動への働きかけ等、個々に 応じた予防に取り組んでいる	水分や食事の摂取量に気を付け、食事、運動へ の参加ができるよう声掛けし、促しています。服 薬については、主治医に相談しています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日 や時間帯を決めてしまわずに、個々にそっ た支援をしている	週2～3日間隔で入浴を行い、入居者の方から希 望がある際などについては、その都度調整して 対応しています。個別でゆっくりと入浴できるよ うに支援しています。	基本は、週に2回のペースで1日2人位の入浴 支援を行っている。浴室、脱衣所は換気され、 ヒートショック対策でヒーターの準備がされてい る。脱衣所まで、車いすの移動がスムーズに行 えるよう広いスペースを確保し、浴室では、ほと んどの利用者がシャワーチェアを利用している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活習慣等を把握し、状況に応じた対応を行ったり、愛用の寝具等使用していただき、安心して安眠、休息ができるように支援している。眠前薬については、医師への相談、処方のもと、就寝前に服薬していただき、支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導のもと、適切な服薬、管理を行っている。利用者お一人お一人が使用している服薬を理解し、変更がある場合は、職員間で情報共有し、記録している。	服薬管理マニュアルが整備され、薬剤師から受け取った薬は、鍵のかかる棚へ収納している。その後、1日分を夜勤者が準備し、日勤者は服薬前に声出して名前を確認しながら与薬をしている。居宅療養管理指導を利用者全員が受けており、残薬なども薬剤師が定期的に確認し、服薬の指導も行われている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の身体状況に応じた軽作業への参加、役割をしていただき、いきがい対策を行っている。ご家族への面会等へのご協力をお願いし、楽しむとできるように支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物への同行をお願いしたり、地域への行事に参加するための外出支援をしている。ご家族へのご協力をお願いし、ご自宅への外出や外泊したりしています。その他外出についても、都度調整対応しています。	施設の周りを散歩したり、家族との外出を支援しているが、医療体制が脆弱な離島のため、感染症の対策を取りながら、外出の機会を増やし始めている。初詣や車いすで行ける桜まつりの会場への外出、ドライブなども徐々に少人数から対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の身体状況に応じて、可能な方は所持しています。必要時には、外出の支援を行い、買い物への支援を行います。ご家族からのご協力をいただくこともあります。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からのご要望がある際は、その都度対応しています。動画での電話も可能できるよう、ネット環境も整備しています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間において、利用者の皆様が快適に過ごせるように、時間帯や季節に応じて、照明器具の光量やテレビ、ラジオ、空調、湿度等の管理を行い、調整しています。壁面には、季節に応じて、利用者と飾りつけを行い、季節感が感じられるようにしています。	建物の中央に広いリビング兼食堂があり、天井は高く開閉式の日窓もあり、自然換気で光と風が心地よく取り入れられている。台所から漂う食事の匂いや準備の音などは、利用者の五感を刺激して生活感がある。温度、湿度計が取り付けられ、職員が拭き掃除をまめに行い、安全で衛生的な環境整備に力を入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々の関係性に配慮しながら、席の配置を行い、お一人お一人が、思い思いに過ごせるように配慮しています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の希望に基づき、使い慣れた家具や家電を配置し、個人空間として居心地よく過ごせるよう配慮しています。	居室は備え付けの洗面台があり、車いすのまま利用することができるため、自室で口腔ケアされる利用者も多い。居室から庭へ出入りすることが可能なウッドデッキが設置され家族も気兼ねなく声掛けできる。自宅と同じように壁掛け時計やテレビ、ラジオなどを持ち込み使い慣れた物に囲まれて居心地よく過ごせるよう環境づくりを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全面バリアフリーとなっており、手すりが設置されています。トイレは3箇所あり、車椅子や歩行器でも快適、安全に使用可能です。利用者の状況に応じて自立した生活ができるよう支援しています。またご自身の居室がわかりやすいように、居室前には、お名前とお写真を掲示しています。		